



認定NPO法人 プレゼントガーデントゥー

Present Garden to

みんなの手

- ◆ 発行：認定 NPO 法人 Present Garden to
〒655-0043 神戸市垂水区南多聞台 1-5-11
TEL：078-785-1516 FAX：078-785-1539
E-mail：present-g@hi-net.zaq.ne.jp
H P：http://www.present-g.com
- ◆ 代表者：理事長 高野 喜恵



偉大な母たち

10 月末に私の母が 98 歳で天に召されました。親族や葬儀に集まって下さった方々の話す母の姿は多面的でお互いが驚きました。戦前戦後を生き苦しみを担いながらもウィットやユーモアに満ち「うふふ・・・うふふ」と笑い人を惹きつける存在でした。

ふと気付くとプレゼント・ガーデンにも保護者、スタッフ、ボランティア合わせると 30 名近い「偉大な母達」がいます。その各々が家庭に、コミュニティー、社会に色々な悩み、悲しみ、しんどさを抱えておられることを伺い知ることができます。

特にメンバーの母達とは、開所以来の長いお付き合いになります。始めは「ちょっとやそつとでは信頼を得ることは難しい」と感じていましたし、「障害者を育てたことのない者にはわからない」という思いも伝わって参りました。

私は教会で生まれ、小さな頃から父母の培った周りからの大きな信頼の中で育ちました。



それから 50 歳にして今までと全く違う世界に足を踏み入れたのです。互いに辛さを心に秘めながらも園芸療法によって必ずや心に変化が生じ 1 ミリまた 1 ミリと成長があることを信じてスタートいたしました。今から思えばメンバーの母達は障害を持って生まれて来た子を受け止める暇もなく育児は始まり、不安と苦悩と悲しみが終わることなく押し寄せてきたことでしょう。相談するにも経験を持つ人は少なく、個性も

理事長 高野喜恵
様々でひとりとして「同じように」という例もあり得ません。しかし PG で出会った頃には何があってもビクともしない堂々たる存在でした。

いつも変わる
ことなく愛を
注ぎ、毎日毎
日我が子の生



活全般のお世話をしながら、
万難を排して PG のために
保護者会やさまざまな活動、
そして携わる者たちへの後
押しに至るまで、本当にその働きたるや多
岐に渡ります。メンバーは日々驚くほど変
化し成長していますが、成長して彼らの世
界が広がれば、それだけ危険や問題も多く
なり母達の不安と心配は増していきます。
同時に歳を重ね、親亡き後にまで心配は及
びます。

PG では毎日楽しく笑い感動が絶えませんが、トラブルや危ない瞬間、悩みも尽きません。解決できないことや結果が見えてこないままの状況も続きます。しかしそんな中であっても皆が「うふふ・・・うふふ」と笑いながら生きたいなあとこの度の母の死から教えられます。人は皆、置かれた所で人知れずその人にしかない重荷を背負っているものです。ウィットやユーモアに満ちたメンバーを中心にその荷を負い合い、学び合う場が必要です。プレゼント・ガーデンの偉大な母達に感謝を込めて。





あいな里山管理

ボランティア講師 辰巳 憲一

私がプレゼント・ガーデンのお手伝いを始めて早や十年に近くになります。開所当時は明舞団地内で「米屋」を営んでおりました。高野さんとはお客様との関係でした。父の土地で、「野菜・果物・花」などを作っていましたので、時々さつまいも堀、じゃがいも堀り、キュウイ狩りなどに招待していたのが始まりでした。数年後に高野さんから「あいな」の国有地を借りて山林作業を行っているので手伝って下さらないかとお声がかかり、当時商売も廃業していたので二つ返事で参加させて頂きました。最初はメンバーさんへ鎌やのこぎりの使い方を指導しましたが危なかくってヒヤヒヤの連続でした。

今では斜面での竹の伐り倒し、枝払い、3mの長さに揃えて一か所に積み重ねるなど、とても上手くできるようになりました。最初の頃はジャングルのような所でしたが登りにくい所は階段を作ったりして今では太陽の光が差し込む広い空間が何か所も出来上がりました。

開所以来メンバーの顔ぶれがほとんど変わっていないのも、プレゼント・ガーデンの素晴らしさと居心地の良さではと思っています。私も今後いつまで続けられるか分かりませんが、毎回楽しみに参加させて頂くことを願っています。



10月25日あいな里山まつりアンクルン演奏



昨年のお客様が少なく寂しい演奏会でしたが、今年のあいな里山まつりはたくさんの方に聴いていただくことができました。大きな演奏会を目標に練習をしている難解な曲目を加え始めている中、皆の努力が形となったとても良い演奏だったと感じました。

今回始めて高野喜恵に代わりナレーションをしました。

緊張しましたが思いつくまま話をしました。その中で頭の中にあったものの言わなかった内容が一つあります。

実は昨年、これも始めて数曲指揮をしたのですが、その時に感じたことです。メンバーの舞台上の力強さと特別な雰囲気というものは

一緒にアンクルンをしてきて知っていたつもりでしたが、本番の指揮をするとそれを上回るものがメンバーから押し寄せてきます。彼らは私を見て、私の手を見て、音を奏でている。北山先生の指揮がまるでメンバーと糸がつながっているようだとおっしゃった方がいらっやいましたがその一端を感じることができた気がします。なんて贅沢な瞬間だろうと正直思いました。昨年は確かにお客様が少ない演奏でした。でも私は知っています。彼らにとってそれは関係なく、お客様が5人だろうと80人だろうと同じ演奏をする力があります。私がせめてできることはこれからもそんな彼らのために舞台を整えていくことだと思うばかりです。

高野 捧



ダウン症の障がいのある娘、瑠里は、今年7月に30歳になりました。

出生時、腸と臍帯が癒着した状態で生まれ、急遽こども病院（当時名）に搬送、翌日に手術。しかも搬送中、病院手前の上り坂で救急車が故障し、隊員の方と看護婦さんにストレッチャーを担いで運んでいただいた、というエピソードまである何ともドラマチックな人生の幕開けでした。

あれから30年。振り返れば、娘と共に歩んだ道は、決して平坦ではなかったけれど、イバラの道ばかりでもありませんでした。私達は世間が思う『気の毒な人たち』でもありませんでした。娘は私や家族に心がほっこりする『幸せ』や『喜び』を与えてくれました。

また周囲のたくさんの方々に温かく見守られ、成長を支えていただきました。特に入所6年目となるPGでは年を経るごとに「るりの奇跡!!」といわれる程の大きな成長を見せてくれます。諦めることなく、彼女の持つ可能性を引き出して下さる高野さん始めスタッフ・ボランティアの皆様へ感謝の日々です。

ところで今は親子共に穏やかな生活ですが、10年、20年後を考えると今と同じような生活は難しいことでしょうか。病気や老化は？終の棲家の場は？など難問が待ち待ち受けています。

が、もうひと頑張り、ふた頑張り!! 前を向いて進みましょう。障がいの子をもつ母だからこそ経験できた人生を全うするためにも…。保護者 榎溪桐代

